

更新日：2022年7月20日

『統計的因果推論の理論と実装：潜在的結果変数と欠測データ』

(2022年7月15日 初版5刷)

正誤表

下記のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

Chapter 15 【211ページ】

図15.1Bのタイトル

【誤】 B. 散布図： $x_1$ と $Y(0)$

【正】 B. 散布図： $x_1$ と $Y(1)$

謝辞：Masaru Aoki 氏 (Twitter ID: @masaru0505) のご指摘に感謝いたします。

『統計的因果推論の理論と実装：潜在的結果変数と欠測データ』

(2022年3月15日 初版3刷)

正誤表

下記のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。（なお、下記の誤りは、初版5刷では修正済みです。）

Chapter 2 【18ページ】

表2.2：潜在的結果0のID18の値

【誤】 70

【正】 80

Chapter 2 【18ページ】

表2.2：潜在的結果0のID19の値

【誤】 70

【正】 80

Chapter 2 【18ページ】

表2.2：潜在的結果の差のID18の値

【誤】 19

【正】 9

Chapter 2 【18ページ】

表2.2：潜在的結果の差のID19の値

【誤】 20

【正】 10

Chapter 3 【38ページ】

表3.1aの有効割合： $156/280 = 0.557$

【誤】 0.536

【正】 0.557

謝辞：シラカワスキー氏（Twitter ID: @shirakawa\_love）のご指摘に感謝いたします。

### Chapter 3 【38ページ】

表3.1bの計

【誤】 236

【正】 230

謝辞：なまがき氏 (Twitter ID: @namagakix) のご指摘に感謝いたします。

### Chapter 5 【69ページ】

上から16行目～17行目

【誤】では、式(5.5)は何だったのだろうか？ 式(5.5)では、 $\hat{\beta}_0$ を0に固定している。これを、原点を通る回帰 (regression through the origin) という。また、式(5.5)の $\hat{\beta}_1$ は、

【正】では、式(5.6)は何だったのだろうか？ 式(5.6)では、 $\hat{\beta}_0$ を0に固定している。これを、原点を通る回帰 (regression through the origin) という。また、式(5.6)の $\hat{\beta}_1$ は、

謝辞：武田興欣先生 (青山学院大学) のご指摘に感謝いたします。

### Chapter 7 【103ページ】

脚注 11)

【誤】久保 (2016, pp.68-91)

【正】久保 (2012, pp.68-91)

謝辞：北野翔大さん (大阪大学大学院) のご指摘に感謝いたします。

### Chapter 11 【159ページ】

脚注9)：当該書籍の奥付では「著作者 高遠 節夫 ほか5名」と記載されていましたが、五十音順では、新井・市川・高遠・野町・向山・村上 (2013) となるため、参考文献の[156]と著者の順序を一致させるために修正いたします。

【誤】高遠他 (2013, p.19)

【正】新井他 (2013, p.19)

謝辞：武田興欣先生 (青山学院大学) のご指摘に感謝いたします。

### Chapter 12 【180ページ】

上から13行目および21行目

【誤】統計群の個体

【正】統制群の個体

謝辞：シラカワスキー氏 (Twitter ID: @shirakawa\_love) のご指摘に感謝いたします。

## Chapter 13 【185ページ】

上から5行目

【誤】岩崎, 2016

【正】岩崎, 2015

謝辞：シラカワスキー氏 (Twitter ID: @shirakawa\_love) のご指摘に感謝いたします.

## Chapter 14 【206～207ページ】

下から2行目

【誤】 $t_1$  が1 であり,  $d_1$  が1 となっている8 つの個体 (行番号= 11, 12, 13, 14, 17, 18, 19, 20) が, 処置の割付け $T_i$ の奨励によって影響を受ける個体である. つまり, 20 個体中8 個体であるから, 0.4 である.

【正】 $t_1$  が1の個体は行番号= 11～20の10個体である.  $t_1$  が1 であり,  $d_1$  が1 となっている個体は行番号= 11, 12, 13, 14, 17, 18, 19, 20の8 つであるから,  $8/10 = 0.8$ である.  $t_1$  が0の個体は行番号= 1～10の10個体である.  $t_1$  が0 であり,  $d_1$  が1 となっている個体は行番号=7～10の4 つであるから,  $4/10 = 0.4$ である. したがって, 処置の割付け $T_i$ の奨励によって影響を受ける個体は,  $0.8 - 0.4 = 0.4$ である.

謝辞：慎重虎先生 (京都大学) のご指摘に感謝いたします.

## 参考文献 【311ページ】

[208]

【誤】新生社

【正】新世社

謝辞：シラカワスキー氏 (Twitter ID: @shirakawa\_love) のご指摘に感謝いたします.

『統計的因果推論の理論と実装：潜在的結果変数と欠測データ』

(2022年2月15日 初版1刷)

正誤表

下記のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。（なお、下記の誤りは、初版3刷では修正済みです。）

Chapter 7 【90ページ】

上から8行目：特に論理的な誤りではありませんが、本書では期待値の括弧は $[\cdot]$ を使っておりますので、他の箇所と括弧の種類を統一します。

【誤】  $E(\epsilon_i) = 0$

【正】  $E[\epsilon_i] = 0$

Chapter 7 【90ページ】

上から11行目：特に論理的な誤りではありませんが、本書では期待値の括弧は $[\cdot]$ を使っておりますので、他の箇所と括弧の種類を統一します。

【誤】  $E(u_i) = 0$

【正】  $E[u_i] = 0$

Chapter 7 【94ページ】

上から9行目

【誤】 Wooldridge, 2020, p.39, pp.374-677

【正】 Wooldridge, 2020, p.39, pp.674-677

Chapter 9 【135ページ】

上から10行目

【誤】 傾向スコアマッチングの利点については, 11.11

【正】 傾向スコアマッチングの利点については, 11.12

謝辞：中村大輝先生（広島大学）のご指摘に感謝いたします。

Chapter 15 【215ページ】

上から20行目

【誤】 実際に, 表15.3で計算したATE

【正】 実際に, 表 15.2 で計算した ATE

謝辞：浅野正彦先生（拓殖大学）のご指摘に感謝いたします。